

5月20日、埼玉・協同連帯ネットワーク第1回定例会が開催され、埼玉県内での協同連帯の活動がスタートした。本ネットワークは、2012年11月に「人間復興のコミュニティを〜働く・暮らす・つながる命」をテーマに開催した「いま、『協同』が創る2012全国集会」の実行委員を中心に、約2年間にわたって準備会13回を重ね、本年3月に結成の運びとなったものである。

ネットワークには、埼玉労福協、埼玉県生協連、コープみらい、生活クラブ生協埼玉、ワーカーズ・コレクティブ埼玉連合会、わらじの会、ワーカーズコープ・センター事業団北関東事業本部、日本労協連、協同総合研究所、会員研究者(富沢賢治・協同総研副理事長他)のメンバーが参加(ネットワークの代表には、協同総研の岡安理事長が就任)。”協同・連帯”を理念として活動している団体間のネットワークを創り出し、「共に生き、共に暮らし、共に働く」ことを中心テーマに地域の多様な団体・市民がお互いの「違い」を認め合い、交流し、お互いが責任を引き受け合う関係を深め、協同・連帯の活動を多くの人びとに発信し、交流の輪を広げていくこと、そして「社会連帯のシステム」や「F(フード)・E(エネルギー)・C(ケア)地域自給圏」などの新しい社会創造をめざし、市民同士がお互いに支え合える社会づくりを目的としている(2015年度は、埼玉労福協が取り組んでいるフードバンクさいたまの活動への参加を柱に)。

「協同」をテーマに創られた地域ネットワークは、新潟、千葉、広島に続いて4番目である。新潟協同ネットでは、パーソナルサポートサービスを事業受託(新潟労福協)し、現在フードバンクにいがたや社会的企業の調査研究活動などを行っている。協同労働ネットワークちばでは、協同労働の法制化運動を基盤に交流を図り、フードバンクちば(ワーカーズコープちば)を設立。広島「協同労働」推進ネットワークでは、法制化集会などの運動的取り組みから、広島市に働きかけ「協同労働プラットフォーム事業」(広島市の事業)を受託するなど、さまざまな協同の活動が展開されている。千葉を除いて、いずれも全国協同集会に参加した実行委員会を中心につくられたものである。今後、昨年11月福岡で開催された全国協同集会実行委員会の後継組織のあり方についても検討に入る予定である。

あらためて「協同」とは何か。それは「力を合わせ、助け合い、支え合って共に働くこと」とある。社会が、地域が、労働が、暮らしが、分断され、破滅的な事態に向かう流れにあって、その持続可能性をどこに見出すのか。私たちは、「生活と地域」を焦点にした連帯の思想の深まりと協同の具体的活動の広がりによって、その活路・方向性を見出せるのではないかと考えている。そのための協同のネットワークでありたいと思う。

協同・連帯のネットワーク設立の基礎と

なっている全国協同集会は、次回2017年に開催される(開催地域は未定)。2017年は協同集会在1987年にスタートして30年目の節目であり、全国連合会としては、2017年までに全国各地で地域版協同集会の開催を呼

びかけている。会員研究者の皆さんにぜひ、集会実行委員会へのご参加とともに、その後結成される後継組織についても引き続きご参加いただければと思う。